

～昨日の風 明日の風～
**経営コンサルタント
 独白録**

【第124回】 情報の取扱い説明書



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、㈱経営改善支援センター(福岡市、URL <https://sien.co.jp/>)代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

一般的に現代は「情報社会」と呼ばれます。1995年のWindowsの登場以来、高度なネットワークが構築され、昨今ではスマートフォン等による情報発信と受信が可能となり、日々膨大な「情報」が世界中を飛び交っています。気象情報・交通情報、商品情報や金融情報、国際情報に政治・経済情報まで指先を滑らせクリックひとつで情報にアクセスできます。「サピエンス全史」の著者・ユヴァル・ノア・ハラリという言葉借りれば、認知革命・農業革命・科学革命と進化した人類はまさに情報革命とでも言うべき時代に突入しています。

情報への理解

では日々我々が受け取っている膨大な「情報」に対してどのようなスタンスが必要でしょうか。情報にはふたつの観点があります。一つは【Information (インフォメーション)】という「お知らせ」と【Intelligence (インテリジェンス)】という「分析結果」です。例えば「○月○日、○時に○○集合」というものはInformationでありつまり「お知らせ」です。まずこうしたお知らせを得なければ個人の行動も集団の行動も始まりません。そしてその日その時間に指定された場所に行けば良いのです。しかしその情報を知るとともに、このように考えることができます。

「なぜこの日、この時間だったのだろうか?」「他にどんな人が集まるのだろうか?」「そもそもこの集まりの目的な何だろうか?」このように少し考えを巡らせると、集合する時の服装は私服が良いか、制服か、それともドレスアップして出かけるべきか?集合するときどんなものを持参すれば良いのか?事前にどんな話題を考えておけばよいのか?...

このように考えを深め自分や組織の行動原理を考えることができます。このように与えられたInformationから分析をかけたものごとをIntelligenceと呼びます。普段我々が接するテレビ、新聞、雑誌、Webなどはすべてinformationです。どんなに親しい人から聞いた話もinformationで、単なる「お知らせ」であることを知っておかなければ

なりません。大切なことはそのinformationの意味を理解し、分析・解析し、自分自身の判断を決定することです。テレビのキャスターや新聞の解説記事を鵜呑みにしてはなりません。

YouTubeはinformation

「YouTubeで勉強しています!」と語る若者が多くいます。「ではそこで得た情報をどのように活かしているか?紹介された書籍や論文に直接目を通して見たか?興味を持った土地を訪れてみたか?」と尋ねるとほとんどがNo!です。また多くの場合、メモすら取っていないのです。「それじゃ、観もしないテレビを流しているだけではないか」と話すのですがなかなか主旨が通じません。「無料だからいいんじゃないですか」と言われると話をする気すら失せてしまいます。身体に適切な栄養と運動が必要なように、精神にも適切なインプットが必要です。それを「無料で」と考えている時点で自分の未来を放棄していることに気付いていないのでしょうか。「AI時代に何を寝ぼけているんだ」と面と向かって言われたこともあります。AIは【感動もどき】を伝えることはありますが自ら感動することはできません。同様に何かを共有することも出来ず、おそらく使い古されたプログラム以外に他人を気遣うこともありません。

身体の中を通った言葉

人に何かの想いを伝える時に、自分の身体を通った言葉以外は伝わりません。どこかから借りてきた言葉を相手は簡単に見破りあなたを軽蔑します。知ったことをどのように「理解し、分析し、自分の言葉に変換し、行動するのか?」。これは誰かが代わってくれるのではなく自分自身で身につけなければならない孤独なスキルです。

本年も大変お世話になりました。来年は時代変化がますます加速します。情報発信と組織活性化支援に努めます。今後ともよろしくお願い致します。